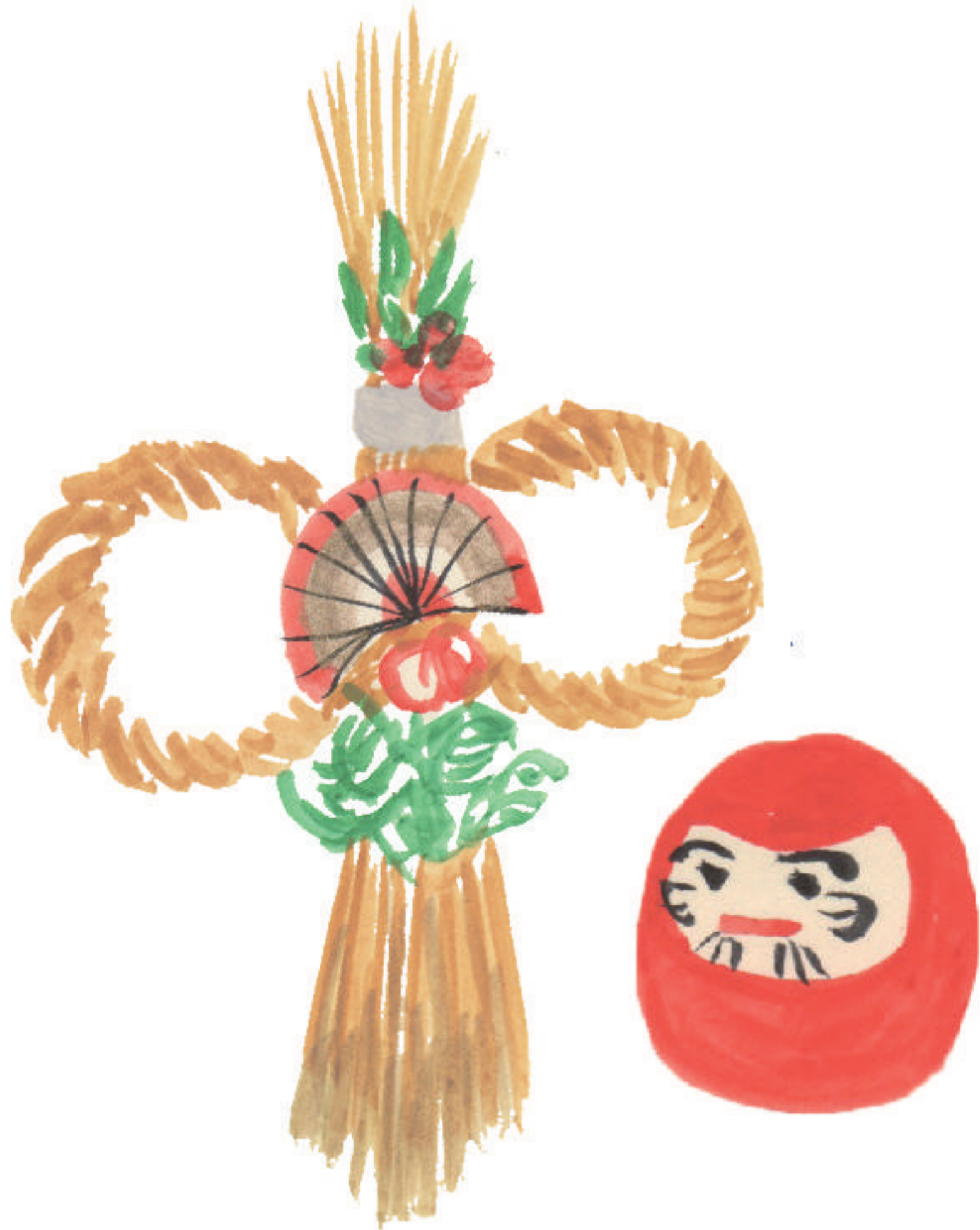


# よんまち かけ橋新聞

yonmachi kakehashi newspaper  
福山とんど特集

# #5



福山の  
かわい  
とんど



# 楽

## 福山とんどの世界にようこそ

子供の頃とんどを経験した商店街の人に話を聞くと、誰もがみんな言う言葉「たのしかったなあ。」この言葉の中には、とんどと、その頃の懐かしさと、その時代の思い出がすべて含まれている気がします。今回はそんなとんどの楽しさと、福山のとんど文化の今昔を追いかけてみました。



とんどは、元々は左義長（さぎちやう）と呼ばれる、全国で見られる古い風習で、長い竹を組んで立てその年飾った門松や注連や書き初めで書いた物を持ち寄って焼き、その火で焼いた餅を食べ、1年の平安を祈る行事です。焼く時にドンドンと大きな音が鳴ることからここ福山では「とんど」という名前が親しまれています。福山では、城下町を中心に、とんどの頂に豪華なお飾りをつけて、練り歩く文化が生まれました。

### とんどってなに？

「よんまち」は練り歩きを中心場所として、時代によってさまざまな形や規模のとんどが生まれました。その後、街中では姿を消しつつありましたが、現在、この福山独自のとんど文化を継承しようと市内の各地でさまざまな取り組みがあります。みんなで力を合わせて「温故知新」を共通テーマとしながら、いつの日か福山市の多くの地域の皆さんが参加した新たな「福山とんど」が「きたはまシンボルロード」に集うことを夢見ています。



※「よんまち」とは、福山駅東地区の4商店街の総称です。

# 福山の かわいい とんど



お飾り

ソラヨイ、ヨイ、ヨイ、ヨイヤナイ、ヨイ、

とんど、とんどーと、  
吉津のとんど。

ぼんてん

商店街で育った人にとっては、とんどの思い出は特別なもの。かつて日本一と謳われた福山とんどは時代と共にその形を変えてきました。今回は、福山固有のとんど文化の今昔と、その精神をお届けします。



左:小田松舟筆 福山左義長絵巻  
右:明治33年皇太子殿下新婚之慶事の福山左義長図  
福山市教育委員会所蔵

## 06 戦後復興のシンボル 「第3世代福山とんど」

昭和24年から昭和40年は「第3世代福山とんど（商店街とんど）」。

高度成長と戦後ベビーブームを背景として、多くの子供達も一緒に参加するよう山車を工夫。大きく長い綱で大きな飾り山車を引っ張る「商店街とんど」が主流となり、親子総勢100人位の大きな山車ものとなりました。大人は酒と熱気に酔い、子供もはしゃいだ3日間。商売も商店主も羽振りが良かったこの時期は、福山の中心部が最もにぎわった時代でもありました。



## 08 「福山とんど」の復活をめざして

平成10年からは、福山とんどの復活を目指して、各地、各団体で色々な取り組みが始まっています。本通の「伝統行事復活交流事業」や東学区や旭学区の「福山とんどまつり」。また蔵王町など福山各地で、古式の置きとんども充実して引き継がれています。将来の「福山とんど（第4世代）」の姿を求めてがんばろう！

※とんどの歴史については諸説ございます。

## 05 飾りを大きくした 「第2世代福山とんど」

明治以後は国家的祝賀行事に、古式とんどが継承されましたが、大正から昭和戦前までは電線の影響で街中では古式とんどは姿を消し、飾りを大きくした山車となりました。各町は飾りを競いながら、たくさんの担ぎ手（農村提携）で練り歩きました。古式とんどは祝祭の時、電線のない場所で復元されましたが、全体に正月行事からカーニバルの要素が強くなったようです。



## 07 歴史をつなごう 「福山子供とんど」

昭和40年～平成10年福山の工業都市化の中、都市部の交通事情も大きく変わり、福山とんど祭りは姿を消しました。代わりに「福山ばら祭」のパレードに小さな古式とんどを子供とんどとして参加する時代もありました。



きたはま通りにあるとんどのオブジェ（岡本 誠氏作）  
モデルをつとめた小川久志さんと。

## 02 全国にある 置き型とんど

室町以後、とんどの風習は民間に広まります。「置き型とんど」は稲作を背景とした正月神事で、現代まで日本全国で受け継がれています。



## 01 日本のとんどの はじまりは平安時代

とんどのはじまりは、平安時代の宮中行事。小正月（15日）に、当時の貴族の遊びに使用した竹、毬杖（ぎっちょう）3本を結び、その上に扇子や短冊などを添え、はやしながらこれを焼いて、その年の吉凶などを占ったとされています。

## 04 「福山とんど」のはじまり （古式とんど第1世代）

福山とんどの原型ができたのは、江戸時代の元和5年（1619年）に水野勝成が福山に入府し、その後、元和8年（1622年）にお城が完成した時、町衆がその完成を祝って、10mのとんどの土台とその上に各町でそれぞれ優雅な飾りをつけて、担ぎながら木綿橋・天下橋（よんまち）を中心とした城下を練り歩きました。城下30町、鞆6町が参加。先頭にまとい持ちが歩き、その後、に祿（かみしも）姿の町の代表、その後に山車が担がれました。当時はすべての山車を燃やす火祭りで行事を終えたようです。水野時代に盛んでしたが、阿部時代には、不穏な時代に入り、開かれない年もあったようですが、火災の恐れがあると全国的に禁止されてからも、福山だけは特別に許され、明治維新後も行事は続いたようです。

## 03 勇壮なけんかとんど

「置き型とんど」と異なり、とんどを担いで、ぶつけ合う「けんか型とんど」。福山では、その昔、深津村で「裸とんど」というものがあり、これをのちに福山藩の開祖水野勝成が福山町内に移したのが、福山とんどの起源のようです。現在でも能登原では「あばれとんど」が行われており、また滋賀の近江八幡の左義長まつりは、戦国・安土桃山時代から現在まで大きな飾りのとんどを互いにぶつけながら女装した担ぎ手が踊り練り歩くユニークなものです。

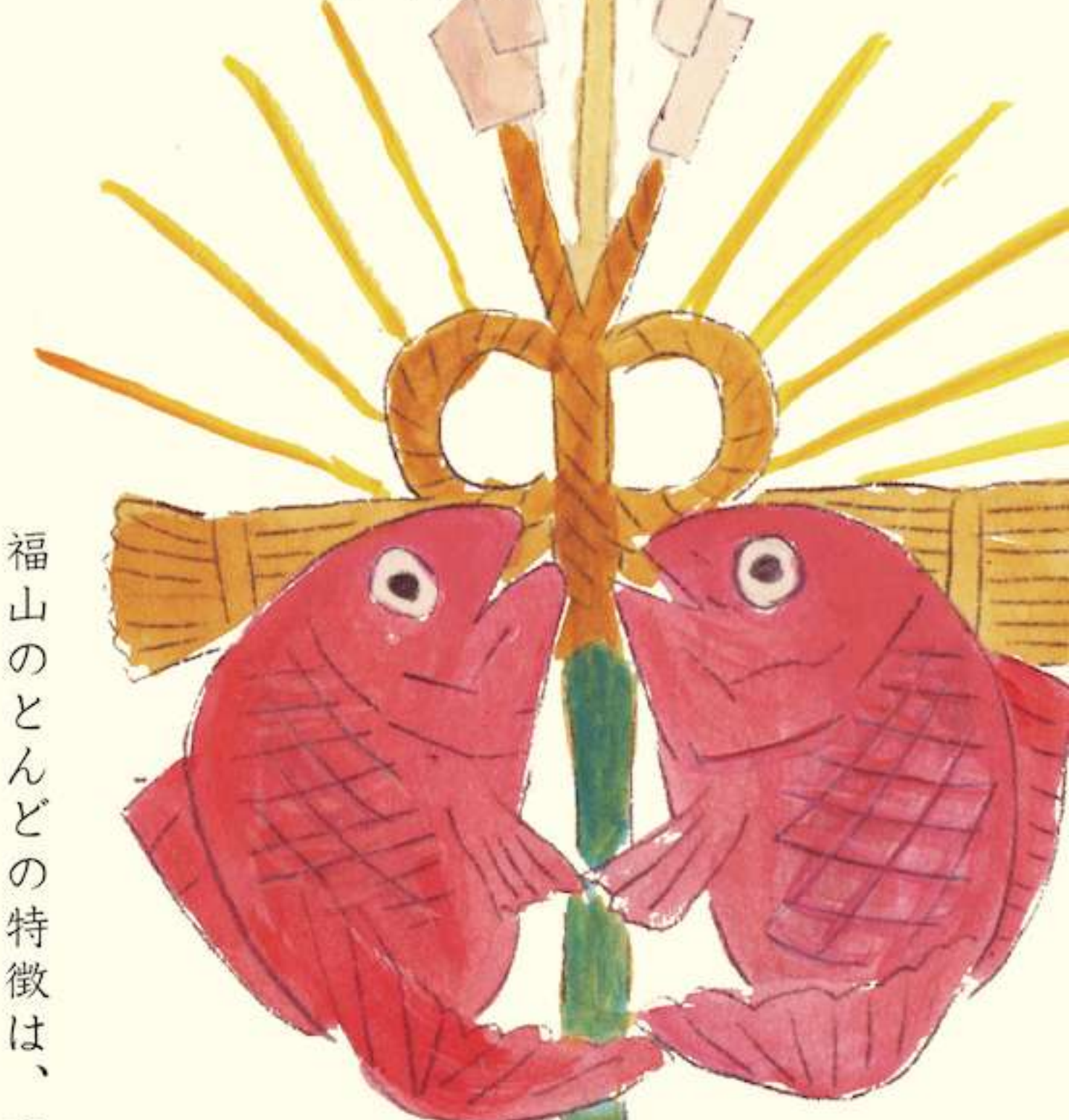


藤井松林 画福山市教育委員会所蔵

# 競う飾



宝船  
船町(現船町)



かけだい  
懸鯛  
上魚屋町  
(現城見町1・2丁目)

福山のどんどの特徴は、頂につけるお飾り。江戸時代に福山城の完成を祝って巨大などんどに、各町でそれぞれ飾りをつけて、かついだことから始まります。福山に城を築いた水野勝成が、お飾りは町の自由にするようにとしたところ、城下町30町、輛6町が参加し、高さ10尺以上のどんどを作りその勇壮なお飾りを競うようになりました。



鶴亀に御世の松  
吉津町(現吉津町)



三方に伊勢海老  
下魚屋町(宝町界限)

## 定番五選



かんこけい  
諫鼓鶏  
笠岡町  
(現笠岡町・今町)

お飾りは年によって違いましたが、城主の水野勝成が、吉津の鶴亀と上魚屋町の懸鯛、下魚屋町の三宝に伊勢海老、笠岡町の諫鼓鶏、船町の宝船、この5つをほめたことから、この5町は毎年同じものを作りました。本通りの諫鼓鶏やジョイふなまちの宝船などは、町のシンボルであり誇りとして、今でも大切に受け継がれています。



「松に鳥」  
大黒町  
(現大黒町)



「野菜の盛り合わせ」  
医者・大工町  
(現霞1丁目・昭和町)



「酒壺と狸々の髪」  
蘭町  
(現昭和町)



「大福帳に神主の冠」  
天神町  
(現本町・城見町2丁目)

## 干支



「猪」野上村  
(現松浜町から以西八町)



「うさぎ」今町  
(現今町・大黒町)



「五条大橋と弁慶の薙刀」  
西町  
(現お城の南と西)

道三町  
(現道三町)

## 歴史

加藤清正の虎退治や、弁慶の薙刀など、歴史上の人物の逸話などから題材を得たものも。

## 昔話



「浦島太郎」  
胡町  
(現胡町)

福山とんどは、お飾りを「競う」ということが、キーワード。福山市の全町で、現代に見合ったおもしろいお飾りで競い合っても楽しそう。福山とんどが盛り上がるそんな日も近いかも？

## 縁起物



「獅子舞」船町  
(現船町・宝町・元町周辺)



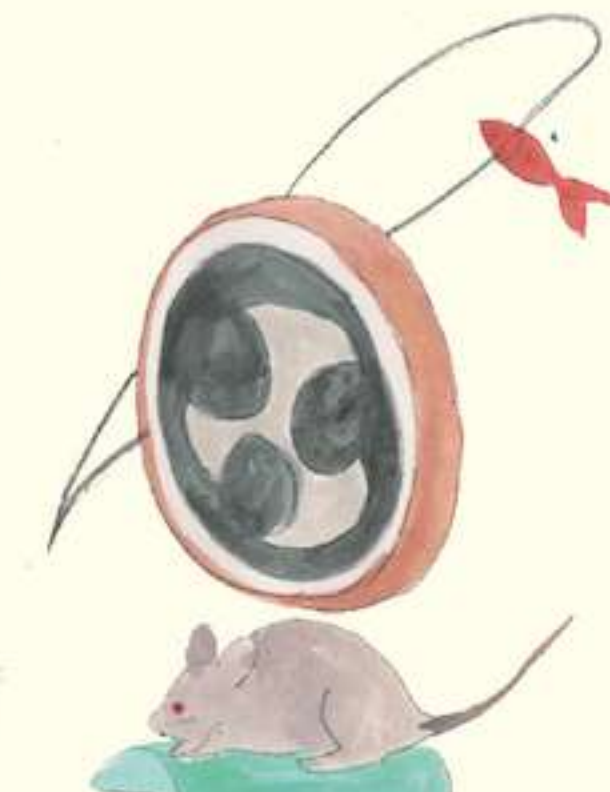
神島中市  
(現延広町周辺)



福德町(現昭和町・住吉町・南町)



中町  
(現昭和町)



医者・大工町  
(現霞1丁目・昭和町)



米屋町  
(現宝町)



神島町上市  
(現船町)



府中町  
(現城見町・大黒町)



鍛冶屋町(現宝町・今町・城見町)



古吉津町  
(現吉津町)



長者町  
(現長者町)



本町  
(現城見町・胡町)



深津町  
(現宝町)



「酒樽」  
霞町  
(現霞1～3丁目)



「船と魚」  
桶屋町  
(現宝町)



「羽子板」  
下市・奈良屋町  
(現霞1丁目・延広町)



「鳳凰」  
胡町  
(現胡町)



「笹竹で巻いた菊水の帳」  
吉津町坂組



「花笠」新町  
(現昭和町・船町・住吉町)

明治20年〜22年のとんどのお飾りを記録した「福山城下左義長図」(濱本鶴寛写)からは、年ごとの各町のテーマを見ることでわかります。まちによって多種多様なお飾りは、干支や縁起物や昔話を題材にしたもの、また、歴史上の人物や町に関係するもの、その年の催しなど、時代を色濃く反映しているものもあります。職人町や町人町が、毎年各町で意見をまとめた上、「今年はこれにしよう」と決めていたようです。

※イラスト下の町名の記載に関しては、あくまでも周辺とします。



**東学区の  
とんど日記**

**学区のみんなで手作りりとんど**

昨年の2018年の12月、よんまち編集部は、とんど作りの際中の東小学校を訪れました。この日は、10月から作りはじめたとんどの完成間近の日。朝早くから、東小学校には、総勢30名ほどの東学区の方が集まりました。年齢層もさまざま。とんど作りを指導する島村美郎さんが、この日の作業の流れを説明し、1日がスタートします。

「はじめてやったときは、10人ぐらいしかいませんでした。」東学区で、とんどを復活させて16年になる島村さん。きっかけは東学区の体育会長に任命されたことから始まった。「体育会は、運動会などいろいろな行事があるけど、子供から大人まで楽しめる活性化になるようなものはないかなと考えていて、その時に、昔はとんどがあったと。」

おはやし  
『左義長音頭集』鯛家文堂作より  
とんど、とんどーと、  
吉津のとんど。  
おはやし  
ハヨイヨイ  
上は一鶴かーめー、  
ちよいと五葉の松。  
おはやし  
ソラヨイ、ヨイ、  
ヨイヤナー。  
ハラソヤー、コラソヤー、  
ハーヤー、アトエー。  
(はやく後に続けとゆう意味)

### とんど音頭の魅力

とんどを練り歩く際に、唄われる「とんど音頭」。一度聞くとクセになる独特の調べ。その歌詞は100種類以上もあり、福山のさまざまな地域の風情や情報が詰まっています。

- ① 行こか戻ろか  
戻ろか行こか  
ここが思案の木綿橋
- ② 場所じゃ場所じゃと  
船町場所じゃ  
出船 入船 宝船  
見たか見てきたか  
福山の城を  
前はお堀でボラが住む  
ボラが住むとは  
昔のことよ  
今はステーションで汽車が着く



①木綿橋を渡ると、当時は遊郭のある新町。橋の上で行こうか戻ろうかと悩む心を唄っています。②当時の船町は、東京の銀座のような栄えた町。船が入り出て、大きな商売人がたくさんいる栄えた町だということを唄っています。

歌詞は時代とともに増えていったそうで、星野さんも、新しい歌詞を考案中。福山の宴会は、とんど音頭をもってお開きとする、と言われ、星野さんも唄を披露される事がしばしば。福山人のDNAに組み込まれている風情溢れる歌詞を、昔から伝わる正調とんど音頭で継承する星野さん、これからも変わらない美声で伝え続けていただきたいです。



星野さん所蔵：福山藩の御用絵師 藤井松林の掛け軸



### interview

星野由幸さん



## 福山の風情の玉手箱 「正調とんど音頭」



正調とんど音頭の名人、星野由幸さん。きたはま通りの『紀伊國屋結納店』の店主で古典芸能保存会の会長として、古くから伝えられる正調とんど音頭を継承されています。初めてとんどに参加したのは4歳の頃。昭和9年今上天皇御誕生の祝賀行事の時。「親父に肩車されながら参加したんです。」唄は高校生の時、とんど音頭を唄うおじさんの唄を聴きながら練り歩いたことがきっかけ。以来、正調とんど音頭を継承するために音源と唄を記録に残し、小学校の授業をはじめ、様々な場所で正調とんど音頭の普及のため尽力されています。

### 築城400年と新時代の幕開けに福山とんどを!

とんどは、明治以後から、国家をあげてのお祝い事がある時、盛大に行われるようになりました。例えば、明治33年の大正天皇のご成婚、昭和9年には、今上天皇のご誕生の祝いなどにとんどを担いで町中を練り歩き、お祝いをしたそうです。今年、平成が終わり、新天皇が御即位され、また、2022年には、福山城の築城400年の年にあたります。おめでたいことが続く年、とんども盛大に行われてほしいと期待する声も!

## 学区全体で連携プレー

東学区内は、福山とんどの代表格である吉津の鶴亀のとんどが生まれた町。しかし、とんど祭りもその文化も忘れ去られていた。「こうゆう文化資産があるんだから生かしたい。子供から大人まで関わりが生まれるものだし、最初は小さくてもいいから、みんなできるとんどを作りませんか、と呼びかけました。」

当初は体育会だけで取り組むつもりで、メンバーに提案したところ「一団体だけでは無理。他の団体と一緒にできないか。」と意見があがった。この言葉は、のちに島村さんにとって重要なキーワードになる。そこで東学区全体の他の団体（老人会、町内連合会、PTA・育成子ども会、女性会など）に協力を仰ぎ、賛同を得てスタートラインに立つ。



## とんど作りゼロからの出発

ところが、どうやって作る？ みんな練り歩いた記憶はあるものを作り方は誰も知らなかった。「一番最初は大変でした。図書館や博物館に行って、いろんな文献や、昔の絵巻を見ながら作り方を研究しました。写真を参考にしながら、こーやって練り歩いていったんだとか」最初は10名ほどで1基作り、そのあと子供たちが町内を練り歩いた。「廃れて何十年も経っているから観客も少なかった。無病息災を祈っているんな願い事や書き初めを燃やしたり、昔の言われも伝えていって、1年、2年経つと、だんだん認知されてきました。」

とんど作りにも、人が集まるようになってきた。少しの作業でも、なるべく多くの人に携わってもらうため、役割分担を決め、作るのとんどの数も増やし、作り方も図面化した。

土台の骨の作りなどは、素人でも組みやすいように、昔ながらの作り方を簡略化しながらも葉さばきや巻縄作りなど手作業を大切にしました。

「簡単にしようと思ったら、いくらでもやり方はありますが、今も昔も生活に役立つ知恵を、できるだけ体験してもらいながらみんなで作りたい。」

10年経ち、1基から始まったものが5基のとんどが作れるようになり、近隣の学校にも呼びかけて、旭学区も練り歩きに参加するようになった。

## みんなでやることの大切さ

現在、島村さんは、福山城築城400年に向けて、別学区にも声をかけながら、とんど作りと練り歩きを広めるため、これまでの16年で自らが学んできたことを伝えている。

「いかにたくさんの人を巻き込めるか、一団円で完結してやっても、広まらないし伝わらない、残せない。作り方、ノウハウをちゃんと次の代に残すため、学区全体で取り組む方法を、いろんな人に伝えたいと思っています。」

夢は、たくさんさんの学区と一緒に36基のとんどをみんなで作り、福山城に並べて、そして練り歩くこと。

「子供が楽しそうに大きな声を出しながら練り歩いているのを見ると、やってよかったと思います。子供の声に元気をもらって、大人も笑顔になる。そして手伝いに来てくれて交流が生まれる。」今後、とんどの輪はますます広がります。



1月14日のとんど祭りの当日、商店街では、とんどと一緒に歩くこどもたちの大きなお囃子が響きました。とんどを燃やすときの大きな歓声、嬉しそうに餅を焼く子供達の様子を、大人たちも楽しんでいました。



東小学校のこどもたちは、学校の授業でもとんどを取り入れています。ペットボトルに毛糸で藁を巻いたとんどの作り方の工作では、お飾りも自由に考えるそうです。





## 商店街の人たちに 会いに行く。

本通商店街  
まちなか情報室ぜっぴ  
コミュニティハウス umbrella

ゼネラルマネージャー  
栗田慶子さん



地域の活性化の鍵にもなっている栗田さんの活動。2015年には、まちなか情報局ぜっぴの取り組みが福山ブランドに輝き、昨年2018年11月には、福山商工会議所女性会の創立50周年記念事業であるふくやま「輝く女性」大賞の最優秀賞に輝いた。元気の源は『一杯のワインとみんなの楽しそうな笑顔』とのこと。

本通商店街で『まちなか情報室ぜっぴ』や『コミュニティハウス umbrella』など空き店舗を活用したコミュニティスペースの運営、また街のイベント企画など、自由で新しい発想を街に送り込む栗田慶子さん。本通に来て8年目。きっかけは、まちなか情報局ぜっぴのBOXショップに出店者として関わったことから。

### 仲間と作り上げる楽しさ



「お店を閉める話が出ていて、もったいない、継続したい!と思いました。」  
様々な仕事で担当部署の価値を高める役割を担ってきた経験を生かし、継続していくための組織作りを行うことに。仲間と一緒に、試行錯誤しながら、出店者自身がオーナーとなり運営に参加する『ぜっぴ方式』を確立させた。コンセプトは『まちづくりに貢献できる社会参加を目的に。』最初は大変だったが、やりながら、その意識を仲間と共有していき、訪れた人の笑顔と笑い声が絶えない温かい場所が作られた。

その後、カフェ、起業に向けたシェアールームなどを備えた『コミュニティハウス umbrella』の運営を行いながら、誰でもが気軽に立ち寄れて、自分らしく歩くことができるような場所作りをしている。

「地域に必要とされる人財を育成することも大切にした。」  
そんな栗田さんを慕って訪れる街の人も多く、また若い世代の人にもアドバイスを求めたり、会話を楽しみに訪れる。

「話をしている最中に、面白い発想や企画が生まれたりして、楽しいですよ。」  
様々な世代の仲間と挑戦を続ける栗田さんにとって、大切なのは『それぞれの仲間の強味を生かすこと』。

「課題にぶつかるともあるけど、誰かのせいにしてどうしたらうまくいこうかを考え、みんなで実行する。それがうまくいったときに最高に面白いものができる。これが元気の源かなあ。」  
今後やりたいことは、まち活動を広げていくこと、備後ワインを広めていくこと、墓マイラー（偉人などのお墓巡り）など栗田さんの夢と挑戦は続きます。



●コミュニティハウス umbrella  
福山市今町3-23  
TEL.084-917-5114  
AM10:00~PM18:00 火曜定休

●まちなか情報室ぜっぴ  
福山市笠岡町2-1  
TEL.084-983-0667  
AM11:00~PM18:00 火曜定休



3 昭和15年 上魚屋町  
懸網のどんど  
紀元2600年祝典  
提供：福山とんど実行委員会  
島村美郎さん



1 昭和30年ごろ  
船町宝船会商店街 宝船とんど



2 昭和15年 上魚屋町  
懸網のどんど  
紀元2600年祝典  
提供：福山とんど実行委員会  
島村美郎さん



4 昭和41年頃 古式とんど駅前展示  
提供：高瀬 和恵さん

5 昭和15年 上魚屋町  
(小山オフセット本宅近辺)  
懸網のどんど  
紀元2600年祝典  
提供：福山とんど実行委員会  
島村美郎さん

## よんまち 古写真館

懐かしのシリーズ

昭和二年の福山中心部古地図



福山公園

場五和駿

福山驛

丸

高橋杖木店  
福山製紙所  
福山同業連合社

福山製紙所

橋

町

福山市役所  
福山市公会堂

福山紡績工場

井上杖木店

福山紡績工場

福山製紙所

福山製紙所

福山郵便局

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所

福山製紙所



# よんまち 新店

よろしくお願ひします!  
近年、開店されたお店を順々にご紹介しします。

## 70年代にタイムスリップ! ひみつ基地 アナログ



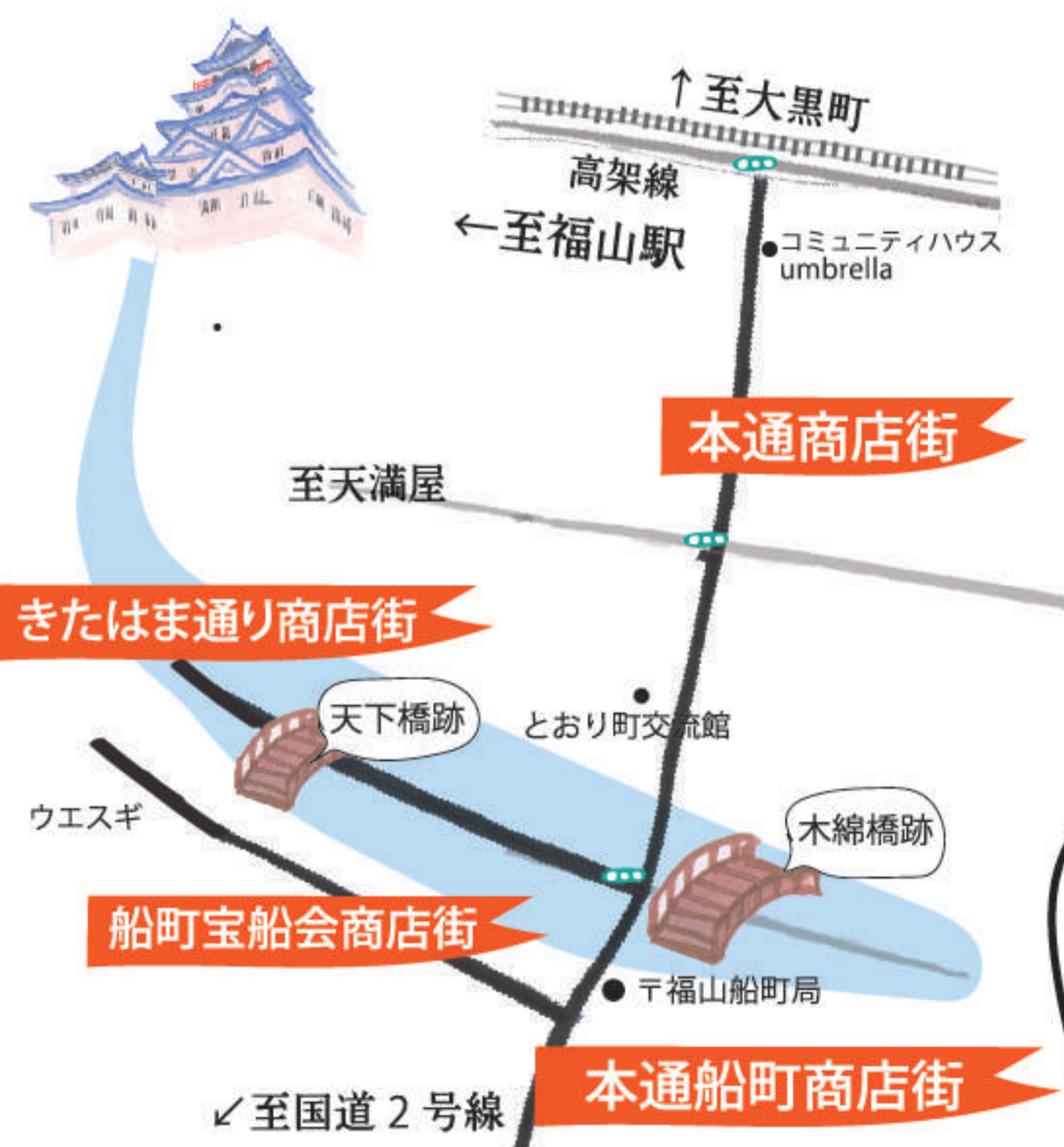
今年、元日に本通商店街にオープンした、ひみつ基地アナログさん。『ひみつ基地』と言いながらかなり目立つお店の外観には、『タイムスリップ 1970's !!』と書かれた手書きのポスター。中に入ってみると、壁の棚に店主の中上昭一さんが15年前から集めてきた70～80年代のレコードがびっしり。懐かしのボードゲームやおもちゃ、仮面ライダーや大阪万博の太陽の塔のレプリカなど、中上さんの青春時代である70年代のものが凝縮した店内。飲み物を注文すると、好きなレコードやボードゲームなどが楽しめる。定期的にライブなども開催される。「70年代って昭和レトロとは違って、アナログなもの、機能的なものが混じってる時代で、ちょうどいい時代だと思ってる。今、この時代に戻ってきてるなって思うこともある。ボードゲームや、オリンピックも万博もそうだしね。同じような世代の人にも、今の子どもたちにも気軽に入って楽しんでほしいです。



福山市笠岡町1-16 (本通商店街内)  
営業時間:10:00～13:00 (土日は18:00まで)  
定休日:毎週火曜、祝日(場合によって変更あり)  
※営業時間、定休日は、ライブ等の予定によって変更あり  
※ライブ演奏は基本1人1時間500円(ワンドリンク付き)  
夜の貸し切りは1人1時間1000円(原則19:00～21:00)で対応。  
☎090-7777-4901 店主:中上昭一



## よんまち とは?



よんまちは、中心部東地区・四つの商店街地域が手を結んで「福山らしさ」を発信しようと2017年の6月に発足した「福山駅東地区4商店街連携協議会」の通称。「きたはま通り商店街」「船町宝船会商店街」「本通商店街」「本通船町商店街」、この4商店街は、江戸時代に作られた2つの橋、「木綿橋」と「天下橋」という橋を共有しながら、城下町の中心地として栄えてきました。このきずなを大事にして、「地域の懸け橋、未来への懸け橋」を合言葉に各々の個性を発信し、福山駅東地区の活性化に連携して取り組もうとしています。

### 今回のよんまち新聞にご協力いただいた方々

資料提供・取材協力:  
星野由幸さん(紀伊國屋結納店) 島村美郎さん(福山とんど実行委員会)  
栗田慶子さん(まちなか情報室ぜっぴ・コミュニティハウス umbrella)  
中上昭一さん(ひみつ基地 アナログ) 小川久志さん  
写真提供:高淵 和恵さん 開地進さん 井上和義さん(高野耕石堂)

その他多くの方に、ご協力いただきました。ありがとうございます。  
写真撮影:安原幸雄((株)安原楽器)  
デザイン・イラスト:木村桃子

